

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
287	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Correlation between addictive behaviors and mental health in university students 大学生における依存行動と精神保健の相関	
執筆者	
Okasaka Y, Morita N, Nakatani Y, Fujisawa K	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychiatry Clin Neurosci 62(1): 84-92, 2008	
キーワード	
他者からの受け入れ、依存行動、精神保健、人生の目的検査、ストレス	
要 旨	
<p>目的： 依存行動、重複依存とストレス、他者からの受け入れ、人生の目的との関連を明らかにする。</p> <p>方法： 8大学691名の学生に対して調査を行った。学生は食物依存あるいは食物依存傾向の試験には食行動テスト20 (Eating Attitude Test-20) を、アルコール依存症、あるいはアルコール依存傾向の検査には久里浜式アルコール依存度テストを用いた。ニコチン依存症あるいはニコチン依存傾向の試験には、ファーマガストームニコチン依存度テストを用いた。ストレスおよび他者からの受け入れの評価には、視覚的アナログ尺度 (Visual analog scale, VAS) を用いた。人生の意味と目的をはかるために、人生の目的テスト (The Purpose in Life Test) を用いた。これらの検査結果を、依存行動のあるもの、依存傾向のある者、それ以外の者で比較した。</p> <p>結果： 食物依存およびニコチン依存についての3群間の比較で、ストレス、他者からの受け入れ、および人生の目的の各スコアで有意差がみられたが、アルコール依存についての3群間では有意差はなかった。学生の28.8%が、食物、アルコール、ニコチンの3項目中1項目について依存があり、8.5%が2項目に、0.4%が3項目すべてに依存していた。1項目も依存していない者、1項目に依存している者、2項目以上に依存している者の3群間の比較で、ストレスおよび他者からの受け入れ尺度について有意差がみられたが、人生の目的については、重複依存との関連はみられなかった。</p> <p>結論： 大学生徒において、精神保健と依存行動および重複依存との間に関連があると考えられた。</p>	